

## 令和6年度第2回豊能町学校施設等跡地利活用検討委員会 会議録

日 時：令和7年3月18日（火） 午後2時00分～午後3時49分

場 所：吉川自治会館 2階軽運動室

構成員：向井裕彦委員、寺本勉委員、南宏樹委員、山浦良紀委員、臼井篤美委員、  
松島康郎委員、宇都宮頼子委員、大塚康央委員、吉田哲委員、  
入江耕平委員

事務局：高木副町長、入江総務部長、浅海総務部理事、田中都市建設部次長、  
山内総合政策課長、黒田課長補佐

傍聴希望者：8名

### 会議次第

1. 検討部会での検討内容の報告
2. 今後の進め方とスケジュールについて
3. その他

開会 午後2時00分

副町長

【 冒頭あいさつ 】

委員長（大塚委員）

これより令和6年度第2回豊能町学校施設等跡地利活用検討委員会を開催する。

定員14名の委員のうち、10名の委員が出席しているので、豊能町学校施設等跡地利活用検討委員会規則第5条第2項の規定に基づき、定数の過半数の出席要件を満たしているので、本日の会議が成立することを報告する。

なお、事前に受付をしている傍聴希望者は8名である。豊能町学校施設等跡地利活用検討委員会規則第5条第4項の規定に基づき、入場を許可してよいか。

委員 異議なし。

委員長（大塚委員）

入場を許可する。

## 【 傍聴者入場 】

委員長（大塚委員）

それでは、次第1「検討部会での検討内容の報告」について事務局から報告願います。

事務局 資料3「学校施設等跡地利活用検討部会の報告について」をご覧ください。  
前回、第1回目の検討委員会で小学校ごとの部会の設置について承認されたので、そこから自治会委員、地区委員、事務局からの推薦という形で合計41名の方々と構成し、第1回目を12月8日に、最終の第3回目を1月25日に合計延べ4回開催した。なお、ワークショップ形式で部会を行ったもので、その運営については株式会社能勢・豊能まちづくりに協力をお願いした。

部会全体の進め方であるが、第1回においては跡地活用の町の考え方、検討にあたっての前提条件等の説明をしながら、まずはとにかくたくさんの方々のアイデアを発散させる回とした。

第2回目については、利活用後の施設をより具体的にイメージしてみる作業を行い、必要なプレイヤーや財源をどのようにするのかなど、フレームづくりも検討し、各班のなかで活発に意見を出し合った。

第3回目については、最終はできるだけ発散したアイデアを現実味のあるような形にできないかというふうに当初考えていたが、ワークショップを運営する上で十分に絞り込んでいけなかった部分もあった。最終の結果が、6ページ以降となっている。

次に3ページであるが、町として考えて欲しいポイントを提示した。共通する事項として人口減少や財政状況への懸念と能勢電鉄沿線にある小学校として沿線の活性化や公共的・公益的でありつつも民間事業者等による利活用についての検討、また、町の方で確保する部分であるが、防災機能の確保や運動場や体育館における社会体育機能の確保についての留意が必要であることも説明している。

次に4ページであるが、3つの小学校の個別の立地の傾向についても、次のように説明した。

1つ目は吉川小学校。都市部から1時間以内で、都会にはない景観があり、利便性と田園風景の広がる里山地域という町外から来られる方にとっては非常に、豊かなポテンシャルを秘めた地域ではないかということ。加えて現在妙見口の駅前のにぎわいづくりの取り組みを、エイチ・ツー・オーリテイリングと行っているところであることも示した。

2つ目の光風台小学校については、駅近の立地ということで能勢電鉄の乗降客の増加にも寄与する可能性があること。また、新光風台地区については、町内で唯一の地区計画「光風台山ノ手地区計画」のエリアにあるということと、そのことで、まちの作りが非常に文教地域的な雰囲気を有していることを示した。

3つ目の東ときわ台小学校については、箕面森町地域と隣接し、新名神高速道路にも近く、物流において有利であることに加え、町の防災計画において、広域の避難所としても位置付けられていることを示した。

また、部会では言及しなかったが、現在川西市の舎羅林山の開発に伴い、箕面森町までの約1キロのネットワーク道路の整備計画が進んでおり、令和10年度中の整備完了が予定されていることもこの場で情報提供する。

続いて、次の5ページである。

ワークショップのプロジェクトシートとして、2回目から使用したものである。具体的に自分たちがこうやりたい、どういったものが地域にできたらいいか、そこに込められた思いなどを図の中心箇所に付箋を貼っていき、その周囲にはどの場所を使うか、ここにしかない価値魅力、継続して運営する上で財源はどうするのか、誰がやっていくのか、誰が主体になり、誰がパートナーになるのか、運営にかかる情報発信、利用者のターゲットなど議論をするために活用するものである。

6ページ以降が各小学校の部会でのワークショッププロジェクトシートである。

まず、吉川小学校部会の検討内容では、平日の能勢電鉄の利用を増やすことを念頭にし、そのために行うこととして、フリースクールの誘致ができないかということであった。理由としては、近年、不登校になる児童や生徒が増加しており、居場所づくりが求められていることから、都会とは異なる田園風景の広がる吉川地域においてフリースクールを誘致し、鉄道での通学によっても、子どもの社会性が培われるのではないかと考えた。この考えであった。

また、周囲の遊休農地の活用した林間学校的な体験や大学の農学部への誘致、大人の学び舎のような案もあった。

吉川小学校部会の委員からも補足を願いたい。

委員      鉄道の利用を増やすという視点で、川西能勢口や猪名川町からでも30分以内で来られるということもあり、フリースクールがよいのではと考えた。説明があったように遊休農地を活用した高齢者大学のような大人の学び舎ができないかと議論をしていた。学生が通学することで、鉄道の利用増につながるのではと期待したものである。

委員      能勢電鉄利用者を増やしたいというのは、山下駅で折り返し運転になったことと、妙見ケーブルとリフトの廃止以降、非常に人の流れが減ってしまった。学校の

跡地利活用のような大きなプロジェクトを通じて、利用者の増加を期待したい。特に学生など若い世代の新しい文化が生まれやすいカフェや町内のスーパー等への無料シャトルバスのようなものもあれば、地域の活性化につながるのではないかな。

委員長（大塚委員）

次の説明を願いたい。

事務局 7 ページの光風台小学校部会のワークショッププロジェクトシートである。先ほどと同様に真ん中のところを主に説明する。

最初は野菜工場やデータセンターの誘致とかそういったことも意見としてあったが、議論を重ねている中で子どもたちの「食」に関する問題、「食育」や家族で「食」について学び、考えるような機会が大切ではないか、そのための施設になればいいのではという意見であった。

そのことから野菜の収穫体験や職業体験、また実際に子どもたちと味噌汁をつくり、朝ご飯を一緒に食べるといったことができる施設。他にはミツマタという和紙の原料となる植物の群生地があるとのことから、ミツマタに関する体験ができる施設ができればいいとのことである。

また、地域交流の分野でいうと、日本の伝統文化、和太鼓や獅子舞などそういった伝統文化も体験しながら学べるような施設ができればとのことである。

光風台小学校部会の委員からも補足を願いたい。

委員 町としては人口減少への対応を考えているとのことであるが、そのためにも学校等の跡地利活用をするということであるが、子どもが多く集まる環境を作ることによって住民が増えてくるのではないかな。現在、不登校の児童、生徒が約35万人と言われているが、我々の時代には考えられなかったことである。こうした大きな社会問題の原因の一つに「食」というものがあるのではないかな。人間が日々生活する上で大切な「食」や「食べ物」というものが、人の心にも密接につながっているのではないかな、そういった議論が我々の光風台小学校部会のワークショップでなされていた。

また、先日、副委員長、吉田先生の研究室での学生の皆さんの跡地利活用案の発表を聞きにいったが、ワイン醸造所や子ども時代の作品を収集し、美術館にするというアイディアなど精密な模型も制作されて素晴らしかった。こうしたアイディアに加えて「食」についても体験しながら学べるものができれば、鉄道や交通にも良い影響があるのではと思う。

同時に3つの小学校の跡地利活用がそれぞれ単独で運営されるのではなく、統一的な、互いに関連する利活用方針になるとよいのではないかな。

委員        同じく補足したい。部会のメンバーでは他にも「食」というテーマでフリースクールにつなげるとか、あとは実際に校舎の中でつくれる野菜工場に携わっている人もおり、本当に意見が多く活発な議論になった。現在、公共施設再編の計画があり、西地区でも現在の公共施設が集まるエリアに複合施設ができるとのことであるが、駅近の光風台小学校の跡地にサードプレイスなど様々な機能が備わり、人が集まる施設になればと考えていた。

事務局        8ページの東ときわ台小学校部会の説明に移る。ここでは最初に集客ということを考え、特に宿泊ができる施設を設けられたらいいのではとのことであった。次に地域交流の箇所にあるように、先ほどのサードプレイスというようなこともあったが、多世代が交流できるスペースがあったらという意見であった。

併せてスポーツ設備、それも比較的若い人が利用する都市型のスポーツ設備や、夜間には空が晴れていると非常に星がよく見えるため、天文観察施設も併設できればいいとなった。また、交流スペースを活用しながら、特に作家による体験型のワークショップや自然体験、野外活動、宿泊体験などの施設にしたいといった議論であった。

その他、補足があればお願いしたい。

委員        ときわ台自治会は、校区と生活区域の関係から吉川小学校部会と東ときわ台小学校に分かれて参加した。ときわ台の小学生は吉川小学校に通っており、子ども会も吉川小学校を使用している。

私は最後の部会には欠席したが、特に大学生の若い人のスポーツ施設などの発想が良かったと思う。平日は地域住民、休日或いは夏休み、冬休みなどは外から集客を目指すという意見も出ていた。

防災面では、東ときわ台小学校は広域避難所ということで、広いグラウンドを使つてのヘリポートの使用が考えられていることから、社会見学などで利用される防災体験ができるような施設という意見も出ていた。

物流に有利という視点については、住宅地であることから別の接道がなければ地域住民としては難しいのではないかという意見も多かった。

委員        ほとんど話は出たが、若い人たちが町外に出ていくことが多いことから、意見を聞くと宿泊施設や温泉があると町の内外から集客が見込めるのではないかという意見もあった。

事務局        報告と補足説明は、以上である。

委員長       ここからは各小学校について 10 分程度各委員から意見を聞きながら進めていきたい。その中で大きな方向性やイメージが形になってくるのではないかな。前回の委員会で申し上げたが、住民の方々にとっては各小学校への思いがあり、そこを大切に進めていきたい。まず、吉川小学校については、委員の意見をお聞かせ願いたい。

委員       吉川小学校の立地的に少し高台にあり、通りから少し上がったところにあって商業施設的なものは難しいのではないかな。フリースクール的なものであれば、少し坂を上っても来てもらえるのではないかな。

委員長       接続道路が 5 メートル程度なので、日常的に来られる人がいるという形が望ましいというのが委員の意見である。他に意見はあるか。

委員       プロジェクトシートを見たところ、自動無料シャトルバスというものがあり、これが非常にいいと感じた。3 つの小学校のプロジェクトシートを見ていて、リピーターがいるということが大事だと思う。一度来て終わりではなく、同じ人が友人を連れてくる、他の家族を連れてくるなどリピートするということが大事なのではないかな。自分自身は兵庫県に住んでいるが、例えば六甲山の人工スキー場などでもバスが出て、御影や六甲の駅の方からバスがきて、スキー場に客を連れて行くという体制がとられており、無料のシャトルバスっていうのは非常にいいのではないかな。もちろんコスト面も考える必要があるが、リピートを考えればそうした視点はすごく大事なところではないかな。

委員長       どのようにアクセスし、リピーターを確保するかという意見かと思う。他には意見があるか。

委員       地域団体として部会に参画していたが、不登校やフリースクールに注目が集まり、ニュースになるくらい問題になっている。いわゆるレッドオーシャンの状態になると、たくさんは必要ないと思う。問題を抱えていても、結局登校しないということもある。吉川小学校部会の中の議論では面白い視点があると思った。つまり、多くは親が送迎しないといけない。自然豊かなフリースクールであっても、親が送迎しないといけない。それではいつまでたっても自立できない。電車があり、1 人で行けるというのはすぐ自分で行けるようになるルートが引きやすいという利点があって、興味深いと感じている。

光風台小学校の「食」を通じた学校についても、駅からは少し遠いという見

方もあるが、上に上がってみると結構面白いのではないかな。また、野菜工場というのも「食」の学校というテーマに合致しているのではないかな。1つのテーマとしてまとまりが出せるように思う。

東ときわ台小学校の方も出たのだが、楽しそうなアミューズメント的なところに注目された意見が多く出ていたが、加えて防災面での要素があることで土台ができるのではないかなと思う。

委員長       それぞれ参加された小学校の特徴も含めた報告をいただいた。吉川小学校について、何か他にお気づきの点はあるか。

委員       私自身もこの部屋に入るのは3年ぶりでここに来たが、トレイルランニングってマラソン大会が3月だったか4月ぐらいに1年に1回ここで実施していた。

この部屋が更衣室としてもものすごく埋まるぐらい、遠方からも多くの人がやってくる。そしてここから出発し、高代寺の方へ登って行って30キロほどの距離になる。炊き出しなどもあり、本当にいいイベントであり、フリースクールという意見があったが、アウトドアの活動にも適している。私も転入してきたがそうした面は強みであると感じる。

委員長       本日は能勢電さんが欠席だが、ハイキングももともとこのあたりからケーブルに乗るとこ初谷川の方に回り、ハイキングをするのかという拠点であり、そうした点を意識することも必要であるかもしれない。

委員       私の妻がボランティアガイドの会に入っており、ちょうど東ときわ台の部会にいた他の方もボランティアガイドの会に入っており、駅前の観光案内所に大体、毎日午前中は誰かが詰めており、訪れる人の数を数えたり会話を交わしたりしているが、やっぱり目に見えて人の流れが少なくなった、特にケーブルカーがなくなって以降は、それを実感するとのことである。だから、そこを何とか人を増やしたい。そうすると平日に来てもらうということになると、やはり学校のように毎日来る、フリースクールなどが毎日来る必要があるかどうかはわからないが、平日ずっとそこに来るようなスタイルの施設がいいのかなと思った。

副委員長     僕の感想としては、フリースクールはいいかなと思うが、今、小学校や中学校がなるべくなら、普通学級のあるところに支援学級もあり、同じ場所に登校するのがいいという方向もあり、一方でフリースクールで学ぶこともいいよとい

うような話もあるので、そこの辺りをどう見るか、フリースクールにすると、本来もうちょっと発達支援をしないとイケない児童・生徒の割合っていうのは、今よりもここ何年かで、すごく増えていっているんで、来てくれるだろうけれども、その一方で自分たちの学校の方に一緒に通えるようにして、ある時間割のところだけ違うということを受け入れようとしている時代にもなっている。今の話の中で、来てくれる人が絶対数として増えるのかどうかっていうことにあんまり期待すると、増えることについては、人口がこれから先増えることはないという認識も必要ではないか。ただ、例えば岡山県の奈義町という町があるんですけども、子供についての手当をふやしたら、子どもの人数が減っている町では、30人くらいでも倍ぐらい増えているみたいな話があって、それは昔のように300人とかにまで変わるのではないが、30人まで減っていたら40人ぐらいまで増やすのは割と簡単であるという言い方をして、明石市と同じだが子どもにかかる手当がいいので、合計特殊出生率が上がり、子どもの数が増えている。しかし、都会の学校ほど子供が多いかというところというわけでもなく、元の人数が減るところまで減ってきているから、すごくにぎやかだった頃の総数の多いところを目指したにぎやかさはおそらくなによっても無理だと思うので、例えば吉川で200人、300人住んでいるところに30人増えたら、割合として増えてきていることになるのではないか。

どの辺を目指せば、例えばフリースクールがいいのか、大学がいいのか、総数を俯瞰的に見る、例えば50人でいいのか30人でいいのか、200人まで目指すのかみたいなことについての、合意がないと何か夢のような話になるのではないか。

1点は大学が郊外に出た時期もあるが、大学と工場を郊外に移転させるという流れはもう止まって、逆向きに大学の売りとしてはいかに都心回帰させているかという方針に帰ってきている。

なので、ただ農学部ということ言うと、例えば京大の農学部なんかも高槻市にあった農場を学研都市のどこかに移し、土だけを持って行って農場とするも、土を取った後は、高槻市にお預けして、開発を進め、もともとあった環濠集落みたいなのを復活させる公園のようにしている。逆に言うと、農学部の学部がなくなって山の上の方に、農学部の研究所みたいなのが移った。日頃いる学生は大学院のドクターぐらい上がったぐらいの学生と、時々本学に授業する先生だけになる。今、豊能町でそういうことやるとそんな農学部という形になりかねない。たくさんの学生が授業を受ける場所の大学には、大学に長くいる人間としてはおそろくならないのではと思う。したがって、何人ぐらいにするのか、やっぱり50、30に増えたらすごく賑やかにはなるという、フリースクールなどどの辺がいいのかということではないか。



委員長 光風台小学校について、「子どもと食」というような話がメインであったが、他の小学校の部会を担当された方からも意見、感想をお願いしたい。

「食」というテーマは委員からも説明があったが外国の食料の問題や農薬問題など「食」が教育にとって非常に重要だということから始まったということで理解してよいのか。

委員 地域的に考えても、農家の多い地域として特色を考えたときに一番いいのは食べ物、一般的には化学肥料を使ったものやオーガニック食料に分かれるが、地域的に考えたら有機農業すべき地域であり、それを活かしていくには、やっぱり子どもたちの「食」を考えるのが一番いいのではないか。高齢者にも食べ物は大事になってくる。私自身もずっと皆さんの話聞いて一番思ったのは、キーワードは学校であるとのことで最も簡単なのは学校を丸ごと誘致することではないか。どんな学校を誘致するのか、先生がおっしゃるように大学もあるし、高校もある、フリースクールもあるし、インターナショナルスクールもある。特色があるとすれば、フリースクールかインターナショナルスクールで、町の方にも聞きたいが、町の方でも具体的な学校の誘致などの話はあるのか。

事務局 今回の小学校跡地利活用、これにも関わるものだが、義務教育学校が令和8年の4月から現在の吉川中学校の場所で開校する予定だが、学校を誘致するという予定はない。認定こども園については民間から誘致する予定になっている。

委員 学校がキーワードになってきており、そのあたりをうまく考えれば、結構話は進んでくるのではないか。先ほどの先生のご意見のように、大学はもう郊外から都心へ回帰しているとのことであれば、あとは時代を考えたら、インターナショナルスクールとか、シュタイナー教育の学校など、従来の日本の学校教育と違った教育を親御さんが考えていることも多いので、特色出していったら「食」の学校とかそういうものも合わせることが現実化していくのではないかと思った。

委員 箕面森町に履正社大学を誘致するという話があって、協定まで結んでいたのに結局何か専門学校の建物が建ち、その履正社の専門学校のグランドみたいに現在なっている。

丸ごと誘致するのは結構難しいなというのが、そこを見ていて思っている。

その上で光風台小学校部会の内容を見ると、NPOなどの法人が運営する、体

験型の学校みたいなイメージを想像した。それともう1つは「食」を考えるとということになると、やっぱり学校給食の有機化ということをしていなくて、ここで「食」をテーマにするというのはイメージが全然違うと思う。豊能町では、学校給食の有機化にまっすぐ行かないにしても一所懸命取り組んでいることとセットになって、拠点のようなものが光風台小学校にあるという感じになればすごくイメージが膨らむと思った。

委員長 事務局に教えていただきたいが、今度、義務教育学校ができた時の給食はどういう形で設備作って供給する予定なのか。

事務局 令和8年度からの義務教育学校についてはこの吉川中学校の改修工事を、一貫校に向けて実施しているが給食施設を整理する。そこで作った給食を東地区の学校にも運んで提供する、いわゆる親子方式、自校方式の温かい給食を東地区の学校の児童生徒にも提供するような形で今現在検討し、整理を進めている。

委員 何か中身は。

事務局 有機とかその給食のメニューの中身については、有機を前面になどそういう検討はできていないと思っている。

委員 中学校給食も含めて、吉川中学校で給食を集めて、供給をされるという形で進められている。有機の給食については、私は前からそれはすごく思っていたが、それをやることによって、1つの豊能町の学校の特色ができるのと同時に、畑などの農地がたくさん空いている。今、若い人で農業したいっていう人が結構いて、そういう人たちは、普通の従来の農業じゃなくてやっぱり有機農業したいという人がいるが、農業で一番問題なのは、売るのが一番大きな問題であって、学校給食で使ってくれたら、ここで使う人達の出荷先が、一部はもうできるみたいな形になるのではないかな。そうしたら、今度就農者の若者も地域に呼び込めるみたいなことになると思ったので、大分ちょっと真剣に考えてもらえたらいいなと思った。

委員長 光風台小学校のこれからのあり方についてまたいろんな意見いただいたらと思うが何かお気づきの点はある。

委員 光風台小学校部会における「食」というところでは、吉田さんという方が

部会に入っており、ご高齢であるが、今現在まだ東京の霞ヶ関、各省庁のところに農業事業の農研機構というところで現在も活躍をしている方がいる。その方が今のその校舎をそのまま活用して、ここの野菜、収穫体験であるとか野菜工場というのが可能ではないかっていうようなことを述べられおり、それも「食」というテーマに惹かれた1つの要因である。また衆議院議員の高市早苗さんが、全国でも小学校の跡地活用に校舎をそのまま活用して、野菜工場っていうのが大変有望だよっていうような発言もあり、「食」は良いアイデアだと思った。

委員長            吉田副委員長、何かご感想を願いたい。

副委員長        発散ばかりになるが、京都の小学校は町中の小学校のように、町中の人たちがお金出して校舎の土地も買って作ったものが多いので、町中に子供たちが多いときに例えば、同じ京都市内で山科の山の方にもう1つ校舎を作って、夏の間だけそこに行かせたり、その間も歩いて行かせたりということを、学舎を大原や山科にもっていた。

丸々新しい学校を誘致するといいなってというのは確かにそうだが、例えば能勢町にあった林間学校のところなど閉鎖されたようなキャンプ場みたいなところ、子ども時代によく行ったものだが、いわゆる大きな豊能地区っていうエリアで、池田とか箕面とかああいいうところの学校に、夏の間1週間ずつでも来てもらう。同じエリアの地域の小学生だし、交流するとかというような学校というのであれば、その間の1週間の授業ができてしまう。そのようなことをシュタイナー教育とかフリースクールという話を聞きながら、どうやったらそれができるのかと思ったら、そうした可能性がないかと少し考えた。有機農業は、ビルの中で野菜工場を作るというのは、今は過渡期で、高市さんはおそらくそれに補助金を出す側なので、進めたいと思うが、補助金が途切れたら危ないし、町中でやっている人たちは、迂闊にやってしまうと、今、ソーラーパネルと一緒に、放置されたソーラーパネルがいっぱい、あちこちで惨状を示すというようなこともあるので、それであれば野菜工場の工場をどう理解するか。この豊かな地面があるところなので、その地面を工場として野菜作る場所だと思います。空いた農地もいっぱいあれば、そこで本当の農業を学ぶとか、その上で一部補助金がついたところに野菜工場を誘致して、2つの古い農業と新しい農業、両方学べるとかっていうふうにすると、例えば町のこどもたちも喜ぶだろうし、そこに、新しくできた小中一貫学校のこどもたちが、数が少なくても例えば池田のこどもたちと交流するとかというようなことを、毎年やっていたら、楽しいのではないかなと思う。

委員長 東ときわ台小学校について意見、感想などお願いしたい。

委員 感想ではあるが、宿泊施設、グランピングとか、スポーツ設備が主なものになっていて、それに星が綺麗とか星座天体観察、こういうところも、売りということでできそうだということで、子供のころの経験ってのは心の中に必ず残ると思うので、その子が大きくなったときに、自分の子供たちがまた連れてくるような、そういうことも考えられるのかと思い出づくりの場ということであればこういう施設もいいのかなと思った。全国から、大阪府からでも全国の学校とかにもこういう施設があるということでアピールすれば、夏休み期間の林間学校であったり、近所のこどもたちも、その他の全国から使ってもらえる。そうすると豊能町自身の知名度も上がるのではと思うので、こういう「食」であったり自然を利用した体験というのは活用できるのではないかなと思う。

委員長 防災拠点、広域避難地ということであるがいわゆる防災資材は今どこに集約されているか。

事務局 今現在は、通常の避難所としてしているところに、分散してそれぞれ備蓄をしている状況である。

委員長 これから避難所はより快適に過ごしてもらうための資機材をどうするかとなってくると今のものだけでは足りない可能性も出てきたりするのでその辺のこともまた、資材置き場って特に大きな費用がかかるようなところもたくさんあると聞いており、段ボールベッドやいわゆる衝立的な間仕切りをどう作るか、そういうところも課題になってくる。そういうところも、どういう場所でどう備えておくかということも考える必要があるのではないかと広域避難地の話が出たので思った。あと東ときわ台についてはいわゆる天文観察ということが出ていたが、東ときわ台のように暗いところが多いのだろうか。

委員 住宅地の端にあり、ちょうど多分夜になると真っ暗なので星が見やすいところではあると思う。東側に山が隣接していてグランドの東の方に行くともあまり住宅地の明かりが入ってこないという意味からいうと、非常に星を見るのが好きな人が、年に何回とか、月に1回でも天体観測のイベントなんかできるのではないかなというイメージである。

委員       私も京都からこちらに転入してきたがやっぱり都心部に比べ、京都市内に比べて、もう圧倒的に星はよく見えるというのと、星に関するイベントが多い。

      近くの猪名川町の天文台があったりとか、町内でも有志の方々やっていたりする。夢ラボというこどもを対象にした教室でも、移動型のプラネタリウムを自治会から持ってきていただいて、そこで見せていただいたりとかっていうのと、豊能町内にも何かプラネタリウムの設備を設置するメーカーか会社があり、星がよく見える環境だと思う。

委員長       隣の能勢町の妙見山は北極星の北辰信仰もある。星というのも1つのキーワードになるかなと思い、お聞きをした。他には何か。

委員       あと意見の中でもグラウンドが広いので、ゴーカートのスペースとかそういう物を作ったらみたいな意見もあった。温泉もいいのではという意見もあったが、費用のかかる話でもあり、グラウンドをあまり固定化されたような施設にしちゃうと避難所や防災拠点というところからいくと制限もある。グラウンドはある程度グラウンドとして残したままでとなると、やっぱりスポーツ関連みたいなそういうことでどう使うかみたいなところに利用としてはなってくるのではないかな。だからこそ、防災に特化した防災体験ができる施設がいいのではないかなという発想が出てきた。

副委員長    グランピングなどについては、都市農地、生産緑地というのが、減少しつつあるのでこれをどうするかっていうことを考えるときに、キャンプ用品メーカーのアウトドア施設にグランピングの施設作ってもらってというのを調べたときに、箕面森町にもあるようなので、似たようなものをここにもという発想だと、本当に自然の中、山中でやっているのには負けてしまう。だが、学校が持っている良さというのは、水道が来ていたり、もしかしたら、シャワーを浴びるぐらいの施設がそこに簡単にできたりするかもしれないので、攻め方を変えたらその宿泊施設も面白いのではないかな。だからそれが、ある時、宿泊施設だけが避難所として避難する方が避難されたときの宿泊にもなるっていう考え方をするとまたいいのではないかと聞いていて思った。

委員長       今日予定では、4時頃までには終わりたいということで聞いているので、それぞれ吉川小学校、光風台小学校、東ときわ台小学校それぞれについて、何かこの場で伝えておきたいということがあればお願いしたい。また気づいた点があれば、事務局の方にいろんな意見を伝えていただきたいのでよろしくお願いします。検討部会でいろんな意見が出てきた。大きな傾向としては、できるだ

け多く実用的に使ってもらえることがいいよねというのが基本的な考え方として、それぞれの学校にもあるのではないかと思う。そこで少しちょっと色合いが違うというところと言うと、吉川ではどちらかという、いわゆる体験型であったり経験型であったり周りが農村地域であり、その風景が広がる地域というところもあるので、そういうところを活かしたイメージが1つあるのかなと思う。そこが、例えばフリースクールのイメージにもつながり、大学の農学部イメージなんかもそういうところにもあるのではないか。

光風台については、周辺の農地なり校舎を使った形での「食」を前面に押し出したような学びの場として使えないかというような考えが、部会でも強かったという意見であった。

東ときわ台については、星の話も出ていたが、防災というもともとそこで規定をされている機能は大切にしないといけないというようなこともあったのではないかと思う。

以前から申し上げているが、学校と非常に大きな施設であるため1つの物で全部を使い切るとするのは非常に難しいと思っているので、多様なものを付け加えて入れ込んでいくかということと、あと今日話を聞いて思ったのが、それぞれの学校それぞれ単独で考えるということも必要かもわからないが、3つの小学校で、違いをどう使うか作っていったりそれぞれがうまく連携する、していくのも1つの考え方としては必要なのではないかというのを、今日話を聞いて思ったところである。

1つは、誰かにお願いをするという考え方、大きな施設であるため当然必要になってくると思う。先ほどから言うように誘致をし、あれをする、声をかけて使ってもらおうかという話も、当然これは絶対ある程度必要になってくると思うが、もう1つは、皆さん方があそこで何をしたいか。自分たちならあそこで何をするのかというところもあるのではないか。教室を使って、例えば私は大人の学び舎のような、教室を使って、私が持っている知識を地域の人に教えてもいい、みたいな話。これは自分たちがそこをどう使うかというところもあるなど、大人の学び舎というところに入ってくるのかもしれない。そういう使い方もあるだろうし、NPOの皆さん方がそこでこんな活動をしていますよと、使えますよという話も片方ではあるのではないか。だから大きな話と自分たちがどう使うのかという話、またそれは住民さん、住民の皆さん方がそこでどのような活動するかというようなところにも繋がるのではないかと思う。

私はもともと茨木市にいて、市役所の前に文化・子育て複合施設「おにくる」という施設ができており、1年間で200万人、あの建物の中に来たとのことで、そこは逆に市民があそこで自分たちがやりたいことをやってみようというところからスタートして箱は作っているが、使い方は皆さんで考えてくださ

いというようなところで作っている施設があった。これはもう完成までに5年10年、5年以上ワークショップをやっていたところですから、そういう人たちが育っているというところもあるのだがそういう視点で、学校のあり方を見ていくのもいいのかなと思っている。ただやっぱりここは非常にスケジュール的に厳しく、廃校になった後、使わないとどんどん悪くなっていくので、うまく使いながらやっていくというところもいるのではないかと考えている。まとまり切れていない部分もあり恐縮であるが、この検討部会の報告から部会ごとでやりたいことなどをできるだけ集約をさせて、検討委員会としてのまとめをこれからまとめていきたいと考えている。この短期間でワークショップに参加いただいた部会委員の皆さん方には、この場をお借りして、改めて御礼を申し上げたい。ありがとうございました。

今回は、これらの意見を集約して、方向性も案として提示し、皆さんがたの意見をいただく形になろうかと思っている。

引き続き今後のスケジュール進め方について事務局の方から説明願いたい。

#### 事務局

今後のスケジュールについてということで次の資料4をご覧いただきたい。

今後、検討委員会でどのようなスケジュールでどのような検討作業を進めていくかを、簡単にまとめたものである。

前回の1回目の検討委員会の際に検討委員会の進め方とあわせて、一方で公共施設の再編の今取り組みも進めているところであり、それも合わせたような形で、スケジュールについて説明をするということであったので、下の段には公共施設の進捗もあわせて説明をする。

上の段から年度、項目として、跡地利活用検討委員会等検討部会、それから公共施設再編の動きと合わせて記載している。

まず昨年8月に第1回跡地利活用検討委員会を開催し、それから、先ほどの検討部会の皆さんの議論をしましたワークショップを1月末ぐらいまで3回にわたって重ねてきた。

公共施設の再編の方については、同様に昨年7月から西地区のワークショップをやってきており、現在も続いている状況である。

それから一番下段のところですけども、公共施設再編の西地区の基本計画の検討については、このワークショップをやっているのと並行して検討作業を進めてきており、最終的には来年度、令和7年度末まで検討を行って計画を策定するスケジュールになっている。

今回の跡地利活用検討委員会では、今日皆さんで議論をいただいた内容をさらにどのような形でまとめていくかと言う事で、先ほどご意見を伺ったので、さらにどうしてもやりたいものを集約していきながら、最終報告書にどのよう

な形でまとめに反映させていけるかという検討作業に入る予定である。

現時点では、5月ごろに予定をしている。次の第3回検討委員会において、まとめの報告書のたたき台となる案を一旦お示しした上で、皆様にさらに協議をお願いしたいと考えている。

そこで十分な議論をいただいた上で、さらにそのまとめの報告書の案をブラッシュアップして、大体6月から7月頃の予定で第4回の最終と考えているが、そこで最終報告書の案をさらに検討いただき、まとめの報告書として町に答申するという報告ができればと考えている。

内容的にはまさにこれからという作業になるが、本日の議論を踏まえてたたき台を作りながら、大塚先生、吉田先生にもご相談をしながら作成していきたい。説明は以上、よろしくをお願いしたい。

委員長       ただいまご説明のあった今後のスケジュールについて、何かご意見、ご質問をお願いしたい。

委員       光風台小学校の跡地利用の問題で、あそこにひかり幼稚園が今ある。ひかり幼稚園は少なくとも、令和11年の3月末まではそこにあることになると思う。そのあと西地区の認定こども園に引っ越すことになると思うが、最終報告を出すときに、ひかり幼稚園があるということと重なるなということがあって、考えないといけない要素の一つなのか。

もう1つは、ちょっと町での議論、議会での議論とか聞いていると、認定こども園が小中一貫校の近くに作るというのがこども審議会の答申で、それを尊重すると言っておられたが、公共施設の再編と総合的に考えてという話だったので、ひかり幼稚園のところそのまま認定こども園を作るということもあり得るのかなど思ったりしていて、もしそうになると、共存していくみたいな形になっていくのか、光風台小学校の跡地利用にかなり制約があるなと思ったのだがそのあたりはどうなのだろうか。

委員長       事務局からお答え願いたい。  
入口にある幼稚園のこれからということになると思う。

事務局       光風台小学校の跡地の利活用については、先ほど委員の指摘のように幼稚園が当分の間はそのままであるということだが、一旦利活用の検討については、認定こども園ができるまでは、今現在のひかり幼稚園があるということでまとめていくしかないのではないかと考えている。

あと、認定こども園がどこになるかということについては、現在、ここで何



か言えるものは特にないと考えている。

委員長       いつまでかは分からないが幼稚園はしばらく残るという前提で、まとめをしていくということではよろしいか。

事務局       はい。

委員長       他に何かありますか。  
ないようでしたら次回は報告書のたたき台の提案をさせていただき、皆さん方から意見をもらっていくという形で進めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

それではその他ということで事務局からお願いしたい。

事務局       次回以降、皆様方の委嘱についてお願いと説明をさせていただきたい。  
現在の皆様方の任期が年度末の3月31日までとなっている。そのあと、また4月以降もまたお願いをしたいと考えているので、あと2回の検討委員会を基本的に引き続きお引き受け願いたいと考えている。

ただし年度が変わって、自治会、大学、企業の方々、それぞれの異動などもあるかと思うので、改めて4月以降にそれを伺う手続きをしたいと考えている。

それ以外の委員におかれては、もし都合が悪くなければ、引き続き了承をいただければと考えているところである。

任期については、6月から7月にまとめの報告書を提出したいと考えているが、検討の状況にもよりますので、念のため、可能であれば9月ごろまでの任期とさせていただきたいと考えている。

説明は以上、どうぞよろしくお願いしたい。

委員長       先ほどありましたように皆さん方の任期が3月31日までということですので、地域、PTA、その辺のところがどうなるかというのは皆さんがたの方で判断いただくところも出てくるかと思うが、できれば議論をずっと重ねているのでこの議論を積み重ねた形で進めていきたいと思うので、引き続きお願いしたいと考えている。

4月になってまた各委員に町から確認をするということをお願いしたい。

最後に各委員から何か報告いただくようなことがあれば、この場でお願いしたい。

委員           この前の大阪工業大学の吉田先生の研究室に行かせてもらったが、学生さんの発表がすごくよかったので、それをホームページに出したらどうかみたいなことがあの場でもあったと思うが、その辺はどうか。

事務局           先ほども吉田先生と話をしており、いただいた紙の資料もあるがデータなども先生の方から提供いただき後、模型をお預かりしてどういった形で見ていただけるかというところもある。一旦こういった見学に行ったということも吉田先生の方で特に問題なければ、前向きに考えていきたい。

副委員長       私は研究室でああいうことをやると、必ず提案した先にお預けするという形で作品も毎行っているのですが、模型も3月に取りに来ていただけたらと思っている。大きい模型なので、研究室の中に飾っておくよりは、地元の場所の小学校とか、町の施設の中で学生が考えると勝手なことやりよるっていうのを見てもらって、話をご近所の方でしてもらおうというのが一番良いのではと思っているので、ぜひ文句などでも言ってやって欲しい。

委員長           ありがとうございます。何かインスピレーションを生み出す機会になるかもわからないので、そのようにしていただけたらと思う。ありがとうございます。他に何かないようでしたら、これををもちまして本日の検討委員会を開きにしたい。本当にありがとうございました。

【 閉会 午後3時49分 】